



FCP中間報告会

第2部：平成23年度 FCP研究会の進捗状況

平成23年9月9日

農林水産省

食料産業局 企画課 食品企業行動室

目 次（掲載順）

- FCP研究会の概要
 - 工場監査項目の標準化・共有化研究会
 - 商品情報の効率的なやりとり研究会
 - 企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会
 - 消費者との対話のあり方研究会
- ※ FCP普及・戦略研究会は、第1部で説明のため省略しております。

※各研究会資料毎にページ番号が付いています。

平成23年度 FCP研究会活動

活動パターン

【研究会】情報共有の場

①農林水産省の設ける研究・発表の場

消費者との対話のあり方

工場監査項目の標準化・共有化

商品情報の効率的なやりとり

企業力向上の場としてのマッチングフェア・商談会の活用

②事業者の主体的な取組農水省が運営に関与

FCP普及・戦略

アセスメント(予定)

地域
ブラ
ンチ

三重ブランチ	愛媛ブランチ	島根ブランチ
岩手ブランチ	和歌山ブランチ	地域の状況に 応じたテーマ 設定
山梨ブランチ	栃木ブランチ	
大分ブランチ	滋賀ブランチ	

平成23年度研究会①～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

工場監査項目の標準化・共有化研究会

- 食品事業者等におけるアセスメント効率化を図るため、平成22年度に作成した、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」に関して、活用を広めることについて研究。
- 今年度は、用途・目的を選択するとそれに適した監査シートを自動生成するプログラムを作成予定。

商品情報の効率的なやりとり研究会

- 「協働の着眼点」の9.【取引先との情報共有、協働の取組】に基づき、消費者を起点として、フードチェーン全体で情報共有の手法を研究。
- 事業規模に関わらず全てのステークホルダー同士が、商品に関する情報のやり取りを効率的に行うために、相互の認識を共有するとともに、論点を整理し協働での対応を検討する。

平成23年度研究会②～農水省の設ける研究、発表の場への参加～

企業力向上の場としてのマッチング・商談会の活用に関する研究会

- 今年度は、「FCP展示会・商談会シート」を食品業界にさらに広く普及させることについて研究。
- 普及に向けた研究内容
 - ①商談会シート記載事例の作成 ②マニュアル冊子製作に向けての原案作り
 - ③バイヤーへの普及のためのチラシ作成に向けた意見交換



消費者との対話のあり方研究会

- 食品事業者と消費者間の信頼構築を目的として、研究会活動で作成した「FCPダイアログ・システム(第一版)」「作業シート」を試行し、その結果を踏まえて対話型コミュニケーションのあり方について意見交換を行うとともに、システムの充実について研究。
- 各社の消費者との対話のケーススタディーを通じて、意見交換を深めるとともに、これらの結果を広く開示して、情報共有ネットワーク参加者に、FCPダイアログ・システム(第一版)の活用を促す。

メモ

F C P 中間報告会

第2部：F C Pの取組状況
F C P 「工場監査項目の標準化・共有化」
研究会

平成23年9月9日

農林水産省

食料産業局 企画課 食品企業行動室

本研究会の背景・目的

【背景】

フード・コミュニケーション・プロジェクト（以下FCP）の基本的な考え方に基づき、食品事業者間の効率的なアセスメントの実施、アセスメント結果の適正なフィードバックのために、既存の工場監査項目のうち、安全性・信頼性確保のための取組に関するものについて、監査項目の標準化・共有化の検討を行うこととしました。

平成21年度の活動では共有可能な項目として、「FCP共通工場監査項目（第1.0版）」をとりまとめ、平成22年度の活動ではそれぞれの監査項目に対して「実施要求水準」と「監査手法」を設定し、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」としてとりまとめました。これらの成果物は、各社により用途別・目的別に編集していただいた上でご利用いただくことも可能です。

【本年度の目的】

本年度の研究会では、FCP共通工場監査項目を更に広く使っていただくことを目指すため、以下の方向で進めます。（各社が現状使用しているシートを作りかえることを前提とした議論は行いません）

- ①使い勝手向上のための各社による用途別・目的別の編集を促進するため、用途・目的を選択するとそれに適した監査シートを自動生成するプログラムを作成します。
- ②作成にあたっては、どのような用途別・目的別の監査シートが汎用性があるかを明らかにします。

併せて、「協働の着眼点」を活用した食品事業者の取組事例に関する情報を広くご提供いただき、意見交換を行うとともに、「協働の着眼点」をより良いものに見直すための情報の提供、改善に向けた提案をしていただきます。

本年度の研究内容

【本年度の研究内容】

『FCP共通工場監査項目をベースとした用途別・目的別の編集例の作成』

平成22年度にとりまとめた「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」は、各社により用途別・目的別に編集していただいた上でご活用いただくことが可能です。このような活用を促進するため、今年度は用途・目的を選択するとそれに適した監査シートを自動生成するプログラムを作成します。

また、とりまとめた用途別・目的別の編集例を実際の工場監査の場面で試行していただき、使用に際しての感想、要望、改善点などについての検証・議論を行います。

(※なお、希望があれば、作成する用途別・目的別の編集例の精度を高めるために、希望者による実地検証を行う可能性があります。)

【本年度作成する用途別・目的別の編集例の位置づけ】

- ・ H21年度及びH22年度に作成した F C P 共通工場監査項目等をベースとします。
(新たな項目の追加、文言の変更等は原則行いません)
- ・ 順番の入れ替え、グルーピング、必要な項目の抜粋などによって、実際の工場監査での使い勝手の向上を図ります。
- ・ 本年度作成するのは、想定される用途別・目的別の編集の一例であり、これらを参考として、各社ごとに用途別・目的別に編集してご活用いただくことを推奨します。

研究会ご登録企業/団体

40企業団体

味の素株式会社

テュフラインランドジャパン株式会社

株式会社ファミリーマート

アヅマックス株式会社

株式会社東急ストア

株式会社フードサービスネット
ワーク

イオン株式会社

東洋冷蔵株式会社

フードテクノエンジニアリング株式
会社

伊藤ハム株式会社

株式会社ニチレイフーズ

みたけ食品工業株式会社

株式会社イトーヨーカ堂

株式会社日清製粉グループ本社

株式会社三越伊勢丹

花王株式会社

株式会社日本アクセス

三菱化学メディエンス株式会社

株式会社光洋

日本フレッシュフーズ協同組合

三菱商事株式会社

財団法人東京顕微鏡院

日本ケンタッキー・フライド・チキン株
式会社

三菱食品株式会社

株式会社シジシージャパン

財団法人日本食品分析センター

株式会社明治

全国乳業協同組合連合会

日本生活協同組合連合会

株式会社山武

全日空商事株式会社

日本製粉株式会社

株式会社ローソン

太陽化学株式会社

日本マクドナルド株式会社

わらべや日洋株式会社

(参考)これまでの研究会の経緯

FCP工場監査項目の作成

<工場監査項目を議論する際の視点>

③ 奥行き: 「実施要求水準」

どの水準まで実施することを求めるか?

② 横軸: 「監査手法」「目の細かさ」

個々の監査項目について、どのような手法を使い、どの程度細かく確認するか?

① 縦軸: 「監査項目」

どの項目を監査するのか?

H22年度研究会

H21年度研究会

FCP工場監査項目の普及にむけて

<普及に向けたご意見>

～H22年度試行アンケートより～

- 効率化が可能
- 評価者の目線合せに有効
- セルフチェックに有効

- ×監査項目の重複
- ×項目の順番が不适当
- ×項目数が多い 等

各社による用途別・目的別の編集で対応可能

FCP工場監査項目(第1.0版)をベースとした各社による用途別・目的別の編集を促進するため、シーンごとにどのような切口が必要か、という観点から用途別・目的別監査シート自動生成プログラムの作成

(参考)平成21年度研究会成果

A社が求める監査項目

B社が求める監査項目

FCP共通工場
監査項目

C社が求める監査項目

D社が求める監査項目

H21年度は各社が求める監査項目のうち共有化できる116項目をとりまとめ、FCP共通工場監査項目 第1.0版としてとりまとめました。

FCP共通工場監査項目 第1.0版

平成22年 2月22日

FCP事務局

【協働の着眼点・大項目1】【お客様を基点とする企業姿勢の明確化】

(1) 【経営姿勢の社内外への明示】

(1) 経営者が、お客様を基点とする基本的考え方に基づいて、安全かつ適切な食品を提供する責任を認識しており、その姿勢を社内

1	経営者または工場長などがお客様を基点とする考えを持っており、その姿勢についての社内外への明示			
---	--	--	--	--

【協働の着眼点・大項目2】【コンプライアンスの徹底】

(1) 【基本方針の保持】

(1) 法令遵守に真摯に取り組む方針を示している

2	法令遵守の取組みの社内外への明示			
---	------------------	--	--	--

(2) 【遵守事項の明確化及び遵守の確認体制の整備】

(1) 遵守しなければならない法令及び基準を明確にしている

3	遵守義務のある法令及び基準の明確化			
---	-------------------	--	--	--

(2) 明確化した遵守しなければならない法令及び基準について随時、適切に更新している

(参考)平成22年度研究会成果

H21年度に共有した項目ごとに実施要求水準と監査手法をとりまとめ、FCP共通工場監査項目（第1.0版）の付属資料として、「FCP共通工場監査項目に関する要求水準及び監査手法」をとりまとめました。

(項目ごとにとりまとめた要求水準と監査手法の一例)

40. 異物検知時の除去、および再発防止対策の確認 (H21年度に監査項目の抽出実施)

実施要求水準

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組のルールがある

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組がルール通り実施されている

異物の検知・除去対策、及び混入の防止、低減への取組が必要に応じ記録されている

監査手法

異物検知、排除の方法、排除品の管理ルールを確認

検知・排除結果に基づく対処ルールを確認

異物検知・排除の現場及び記録にてルール通り実施されていることを確認
設定した基準通りの精度で排除できることを確認

製品を全量、機器で検査していることを確認

異物検知時の記録を確認

本研究会の進め方

1. どのような用途別・目的別の編集例をひな形として作成すれば、各社で編集する際の参考になるかを議論・検討
2. 平成23年度の研究会でとりまとめる編集例を決定
3. チームに分かれてグループディスカッションを行い、それぞれの用途別・目的別の編集例をとりまとめ
4. とりまとめた用途別・目的別の編集例の検証
5. 試行を通して具体的な利用シーンを増やし、活用事例を集めて普及につなげる

※「FCP共通工場監査項目」に係る、農林水産省による実態調査について

今年度、農林水産省では、「FCP工場監査項目」の中小・零細事業者への適用可能性の実態調査のため、パンフレット形式のマニュアル作成等を検討しております。

研究会参加の皆様には、この一環として、工場監査の実態等について、個別ヒアリングやグループインタビュー等のご協力をお願いさせていただくことがあります。

研究会での議論

自社での活用

まとめ

どの用途別・目的別の編集例を作成するかを検討

各用途別・目的別の編集例の作成

作成した編集例の検証

実際に使用、活用事例の収集

希望者による実地検証を行う可能性があります。

第1回研究会の議論まとめ

普及のためにはどのような
用途別・目的別シートのような
集例が必要か???

入門版シート（最低限の衛生管理項目のみのシート）

使用状況別シート

- ・新規監査用シート（Fullバージョン）
- ・定期監査用シート

製品加工度別シート

- ・低度加工品（Fullバージョン）
- ・中度加工品
- ・高度加工品

危害別シート

- ・生物的危害
- ・物理的危害
- ・化学的危害
- ・アレルギー物質

教育用ツール

工程別シート

今年度研究会の議論に向けて — 工程別の監査シート(たたき台) —

場所	工程	FCP工場監査項目	レベル	要求水準	監査手法		
製造加工場	原料受入・保管	26	調達物資(原材料など)の必要に応じた保管条件の遵守	1	調達物質の保管条件が遵守されている	保管状態を確認	・原材料の入在庫管理がされていること ・必要に応じて保管庫の温度湿度管理がされていること
		27	不良品、返品との区分管理の実施	1	不良品、返品との区分管理のルールがある	不良品、返品との区分管理のルールを確認	・不良品、返品が明示されていること
			⋮		⋮	⋮	
	調査・仕込み・配合	22	工程図があり、現場の実態と合っていることの確認	2	工程図と現場の整合性がとれている	工程図と現場の整合性を確認	
		24	防虫・防鼠対策の実施	2	防虫・防鼠がルール通り実施されている	現場に虫・鼠、又はそれらの痕跡がないことを確認	
事務所							

<場所と工程>
製造加工場

- ・原料受入～保管
- ・調査・仕込み・配合
- ・殺菌・加熱
- ・充填・包装
- ・保管・出荷
- ・検査・分析
- ・外周・設備・ユーティリティ
- ・トイレ・ロッカー等製造以外の人が集まる部分

事務所

- ・ヒト衛生管理
- ・ヒト教育
- ・マネジメント
- ・文書管理 マニュアル
- ・文書管理 記録

※製造プロセス、従業員管理、マネジメントレビュー、文書管理の観点で分類

用途別・目的別工場監査シートの成果物イメージ

カット野菜工場の定期監査で物理的有害と化学的有害をポイントに確認をしたい…



用途別・目的別工場監査シート 作成ページ

使用目的	社内教育用	<input type="checkbox"/>
	二者監査用	<input checked="" type="checkbox"/>
	基本的衛生管理の確認	<input type="checkbox"/>

監査の頻度	新規監査用	<input type="checkbox"/>
	定期監査用	<input checked="" type="checkbox"/>

対象製品の加工度 ⇒定義は検討中	低度加工品	<input checked="" type="checkbox"/>
	中度加工品	<input type="checkbox"/>
	高度加工品	<input type="checkbox"/>

用途や目的をクリックして『決定』を押して下さい

危害別 (複数選択可)	すべての有害	<input type="checkbox"/>
	生物学的有害	<input type="checkbox"/>
	物理的有害	<input checked="" type="checkbox"/>
	化学的有害	<input checked="" type="checkbox"/>
	アレルギー物質	<input type="checkbox"/>

決定

使いたい用途・目的をクリックすると用途別・目的別のシートを自動生成

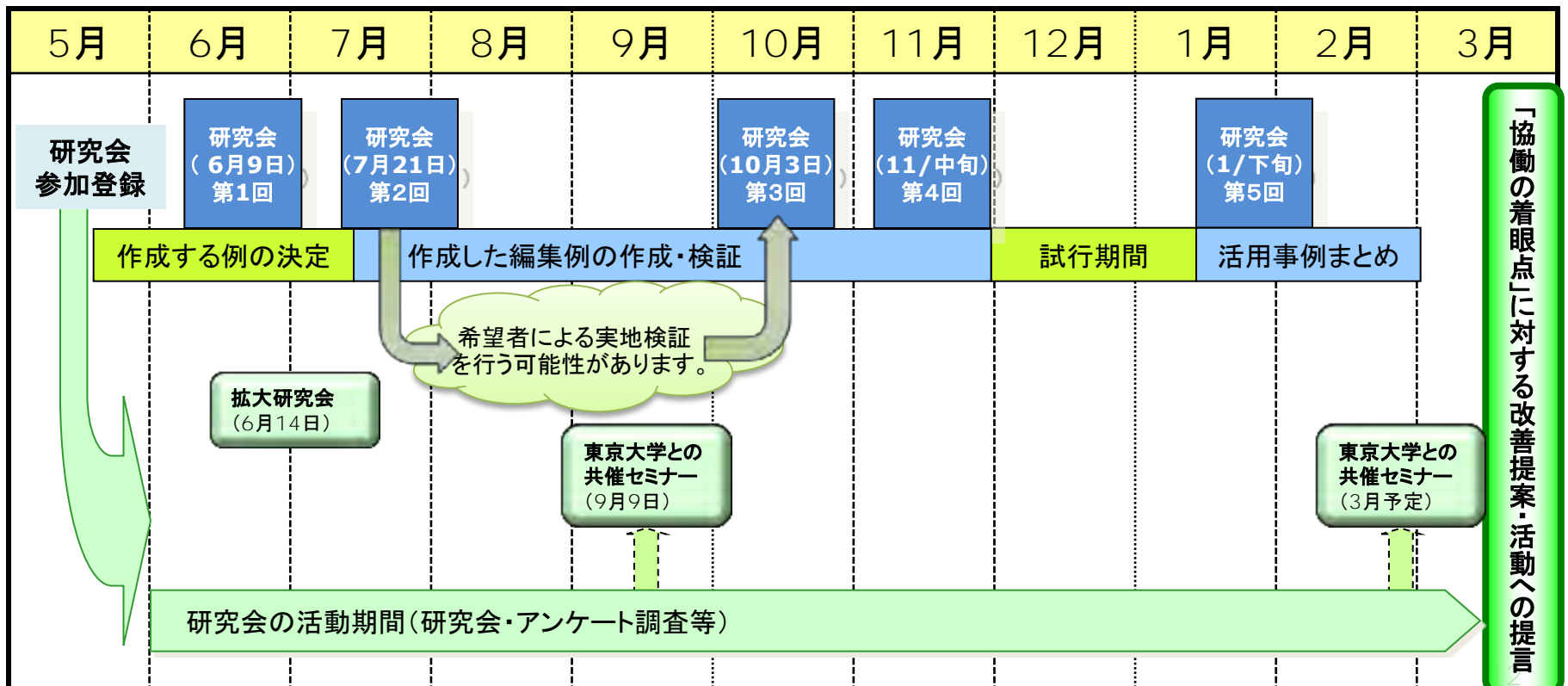
研究会の進め方とスケジュール

○研究会：年間5回の開催を予定しています。

（開催回数は研究会での検討状況に応じて変更する場合があります）

○東京大学との共催セミナー：年間2回を予定しています。

・研究会の取組、進捗報告、成果報告を発表する予定です。



「協働の着眼点」に対する改善提案・活動への提言

FCP中間報告会

平成23年度 FCP 「商品情報の効率的なやりとり」研究会

2011年9月

農林水産省

食料産業局 企画課 食品企業行動室

「商品情報の効率的なやりとり研究会」の背景・目的

【背景】

消費者の食への信頼向上の為に、事業者間でやりとりされる商品に関する情報は増加しており、フードチェーンの各段階で情報のやりとりに関する作業も増加しています。また、同じやりとりの場面でも多様な関係者の間で立場が異なることから、商品情報のやりとりについての考え方は異なる傾向にあり、問題は複雑化しています。

このため、お互いの立場、考え方の違いを認識しつつ、消費者の信頼確保と情報のやりとりの効率化という目的を共有して課題解決に取り組む必要があります。

【目的】

本研究会では「協働の着眼点」にもとづき、消費者を起点として、フードチェーン全体で情報共有の手法を研究することにより、事業規模に関わらず、全てのステークホルダーの間で、商品に関する情報(特に品質情報)が効率的にやりとりされるための論点を整理し、協働での対応方向を研究します。

本研究会では協働の着眼点の「商品等についての情報共有」をベースに、消費者の信頼を確保するために、事業者間の情報のやりとりをいかに効率的に行うかという研究を、参加者による積み上げの協働作業により進めます。

(なお、直接的に仕様書のフォーマットやシステムについて議論することは予定していません。)

研究会ご登録企業/団体 26企業団体

平成23年9月5日現在

株式会社アイ・エス・レーティング	財団法人 東京顕微鏡院
味の素株式会社	東洋冷蔵株式会社
イオン株式会社	株式会社ニチレイフーズ
株式会社 イトヨーカ堂	株式会社日清製粉グループ本社
株式会社内田洋行	株式会社 日本アクセス
カゴメ株式会社	株式会社ファミリーマート
サントリーホールディングス株式会社	株式会社 みつかん
株式会社 生活品質化学研究所	三菱化学メディエンス株式会社
太陽化学株式会社	三菱商事株式会社
株式会社 高島屋	三菱食品株式会社
合同会社TFMHY研究所	株式会社 明治
テーブルマーク株式会社	株式会社ローソン
株式会社 東急ストア	日本HACCPトレーニングセンター

本年度の研究内容

昨年度の研究会で立てた仮説

情報管理体制等に関する情報をやりとりすることで、実際にやりとりする情報項目の量・回数(頻度)を減らせるのではないか(代替出来るのではないか)

にもとづいた議論を進め、個別事例の研究を積み上げていきます。

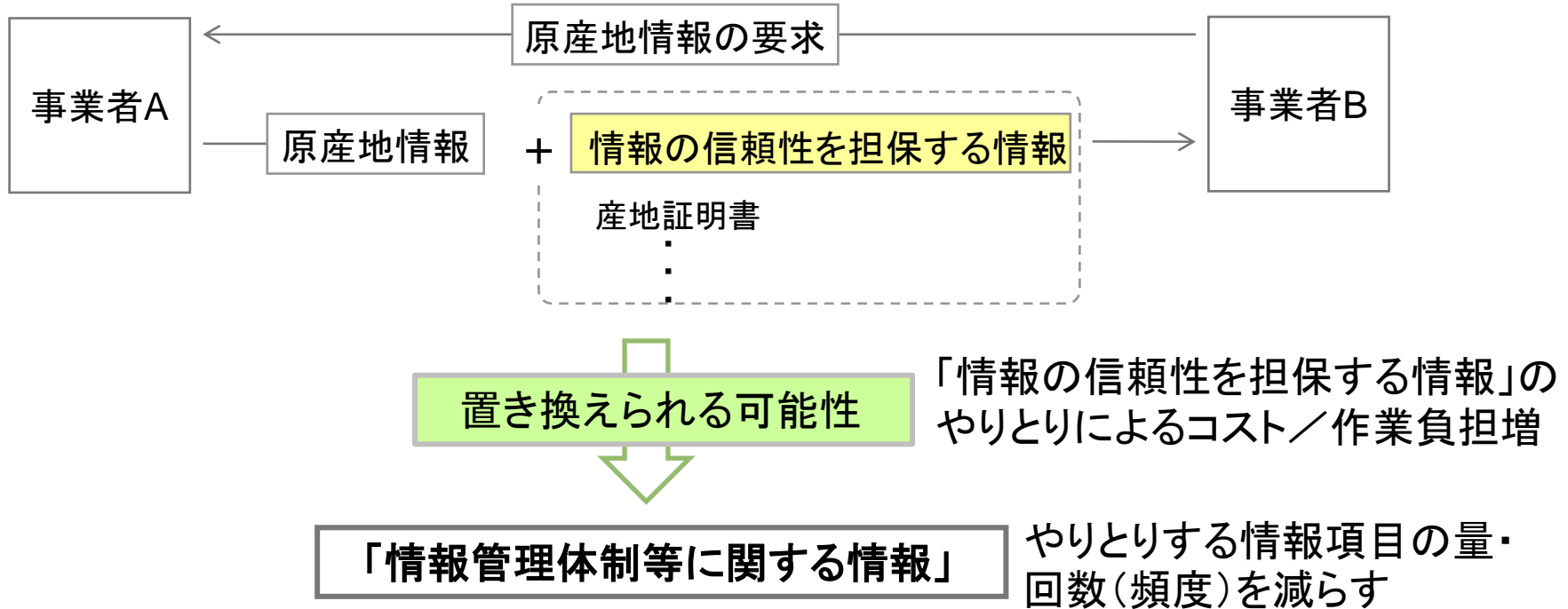
「お取引先様及び社内、品質管理部署と商品取引部署及び関連部署にて、確認項目(検査内容や製造キャパ、対象商品の原料仕入先、等)を互いに共通項目を決めて持ちあう(帳票類そのものではなく、何の帳票もしくは記録があるのか無いのか)ことで、確認時に項目を限定して話をすることが出来る体制にする。」といったアンケート結果を踏まえて検討したものです。

本年度は

- ①昨年度の議論について振り返りを行い、その中でなぜ「情報の信頼性を担保する情報」がやりとりされているかその背景を討議し、フードチェーン全体での相互理解につなげていきます。
- ②昨年度の仮説について、ケーススタディーを広げ、解決手法をブラッシュアップします。
昨年は原産地・配合率を用いて事例研究を行いました。
本年度は新たな商品情報の項目を取り上げ、その項目について「情報の信頼性を担保する情報」に置き換えられる可能性と「情報管理体制」に求められる条件について議論を深めます。
- ③「情報管理体制に関する情報」について、その確認方法について検討を始めます。
「情報管理体制に関する情報」をやりとりすることで、「情報の信頼性を担保する情報」のやりとりの負担を低減できることが見出されていますが、情報管理体制の整備状況について確認する方法を検討します。

研究会の進め方

原産地情報についての事例研究より (H22年討議)



「情報管理体制等に関する情報」について議論を深めます。

議論のポイント

- なぜ「情報信頼性を担保する情報」を要求するかの背景
- 情報管理体制に求められる条件
- 情報管理体制の整備状況をどう確認するか

研究会の進め方

本研究会は以下のステップを進めていく予定ですが、参加の皆様のご意見を反映し、柔軟に見直してまいります。

研究会
第1回目
で討議

Step1 「情報の信頼性を担保する情報」を要求する背景について討議

H22年度の討議の振り返りと研究会テーマを再確認。また、負担増となっている「信頼性を担保する情報」のやりとりの裏にある背景を討議

Step2 「情報の信頼性を担保する情報」を置き換える「情報管理体制」の抽出と整理

「情報管理体制」の一例（H22年討議まとめ）

- ・情報の一元管理（社内体制、情報をストックする仕組み）
- ・規格書の整備
- ・取引先との関係（常に情報のやり取りが出来る関係）
- ・トレースが出来る仕組み など

Step3 個別事例を用いて「情報管理体制」のケーススタディーを整理

H22年度は、原産地、配合率について試みに討議

H23年度の個別事例については検討中

Step4 「情報管理体制」の整備状況の確認方法について討議

「情報管理体制」がどのくらい整備されていれば、「情報の信頼性を担保する情報」から置き換えられるか、またどのような方法で確認できるかについて討議

進捗報告

進捗概要	第1回研究会 H23.7.1	「情報の信頼性を担保する情報」を要求する・要求される背景 について、整理し認識を共有しました。
	中間アンケート H23.8.19～31	第2回以降の研究会を効果的に進めるため、参加者を対象にアンケートを実施しました。 ＜アンケート内容1＞ 「情報の信頼性を担保する情報」を置き換えるための「情報管理体制」について、(1)どのような項目を確認すれば良いか、(2)それはどのような状態であれば良いか、を挙げて頂きました。 ＜アンケート内容2＞ 3回目以降の研究会でおこなう予定のケーススタディーを、実態に即した題材にておこなうため、商品情報のやりとりで頻度の高い項目と取引の上で手間のかかる項目を挙げて頂きました。
今後の予定	第2回研究会 H23.9.20	第1回研究会及び中間アンケートの結果を踏まえ、 「情報の信頼性を担保する情報」を置き換える「情報管理体制等の情報」の抽出と整理 をおこないます。

今後の討議のポイント

昨年度
研究会から

情報管理体制等に関する情報をやりとりすることで、実際にやりとりする情報項目の量・回数(頻度)を減らす可能性が認められた(代替出来るのではないか)

第一回研究会
討議内容から

- ・法適合性の確認がほとんど
- ・情報のトレースのレベルが原料や製品の種類によって異なる
- ・原料の種類によって開示要求レベルが異なる

目指す姿

事業者A

原産地情報(〇〇国など)

原産地情報の要求

事業者B

情報管理体制等に関する情報 に求められる条件

情報管理のポリシー
 情報管理のルール
 情報の管理責任体制・仕組み
 情報の管理責任体制・組織
 情報の正確性

情報と製品の関連付け(トレース)
 情報の由来(エビデンス)
 情報の公開性
 情報セキュリティの確保
 情報管理教育
 など

第二回研究会
事前アンケートから

今後の議論のポイント

情報管理体制等の整備状況をどう確認するか

研究会のスケジュール

○研究会：年間5回の開催を予定しています。

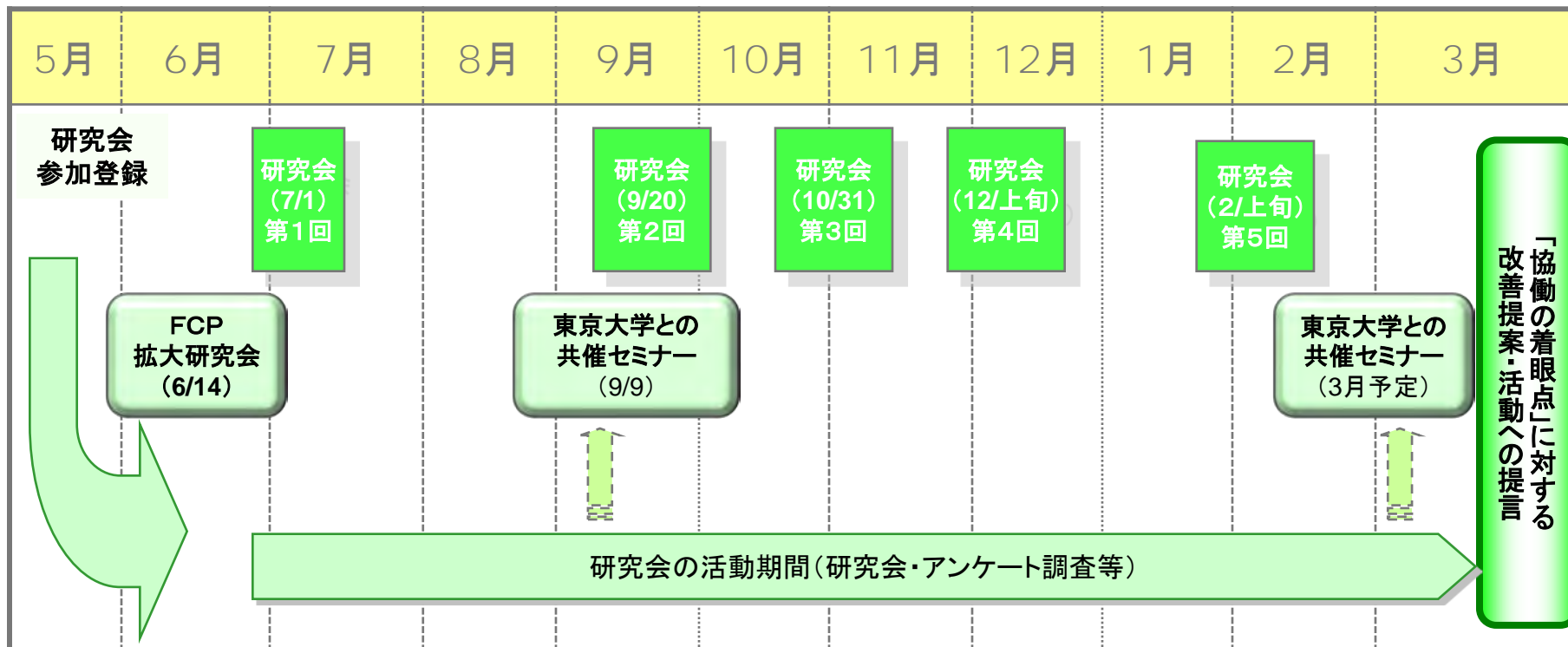
（開催回数は研究会での検討状況に応じて変更する場合があります）

・**第2回：平成23年9月20日 午後**

平成23年度研究会の進め方、およびグループディスカッション

○東京大学との共催セミナー：年間2回を予定しています。

・研究会の取組、成果報告を発表する予定です。



メモ